

説教『新たに、上から、霊によって』山本 護 牧師
聖書 詩編 51:12~14/ヨハネによる福音書 3:7~8

ニコデモは最高法院の議員で(ヨハネ 3:1)、人格者(7:51)。彼は己の信仰的な虚しさを自覚していたのか、イエスに教えを乞うた(3:2)。高位の信仰権威者が無資格者から学ぶとなると、世間が許さないため、夜半にこっそり訪ねた(3:2)。そしてイエスに「人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない(3:3)」と教えられるが、ニコデモにはそれが分からない(3:4)。また「風(霊と同語)は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである(3:8)」と教えられても、受け入れることができない(3:9)。

ニコデモには聖書(旧約)の象徴を解する知性や、それを冷静に読む学識もあった(7:51)。そして己の虚しさから真なる信仰を求めてもいた。しかし、さして難解ではない比喻に躓いた。何か無意識の障壁でもあるのだろうか。彼は扉を叩きながら、部屋には入らない。夜の訪問は(3:2)、周囲への配慮であると同時に、「新たに生まれる(3:3)」ことへのニコデモ自身の躊躇を暗示しているのかもしれない。

「[あなたがたは新たに生まれねばならない]とあなたに言ったことに、驚いてはならない(3:7)。「新たに生まれる」ことは人間にとって、驚き、恐れ、逡巡を伴う。「新たに(another)」とは奇妙な言葉で原意は「上から、最初から」。敷衍すれば「人は天から生まれなければ、神の秩序を見出しえない」と訳せよう。最初から「生まれ直す」とは子供のように無邪気になることではない。「言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである(1:12~13)」。すなわち「新たに生まれる」とは、私たちが「神によって生まれ(直し)」、「神の子」とされることなのだ。

「風(霊)は思いのままに吹く(3:8)」。傍観者でも、神の存在と働きを予感することはある(3:8)。だが私たちは傍観者ではなく当事者だ。「霊から生まれた者も皆そのとおりである(3:8)」。新たに、上から、霊によって生まれ、神の御心に「吹かれる」者である。だから自分自身が「どこから来て、どこへ行くかを知らない(3:8)」。しかし霊が知っておられる。私たちは自分の狭い判断ではなく、神の聖霊に信頼を置く。私たちは神の子とされ(1:12)、霊に導かれ、霊の働きに参与する冒険へ踏み込む。

ニコデモは「神が共におられるのでなければ、あなた(イエス)のなさるようなしるしを、だれもおこなうことはできない(3:2)」と知っていたが、傍観者であり続け(3:4,9)、「新たに生まれて」神の子になろうとはしなかった。私たちは、詩人の率直な言葉を思い起す。「神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊を授けてください(詩編 51:12)」。当事者であることのなんと骨太な祈りか。「御救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください(51:14)」。すでに神の子とされているキリスト者もまた、新たに、上から、思いのままに吹く霊によって、「生まれ直される」。

風が私たちを吹き抜ける時、乏しい焰はゆらゆら揺れ、燃え上がる。聖霊によって新たに生まれ、従う私たちには自らの行方が分からないが(ヨハネ 3:8)、永遠なる(3:16)光の方位(3:21)に違いあるまい。



【おまけのひとこと】

「上から」と「最初から」がなぜ同語なのか 「下から」と「途中から」は同語ではないが 私としては心当たりがある 最初からではない私を結び目にすれば あの言葉はいわば反語なのかも